

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4094000033		
法人名	医療法人社団緑風会水戸病院		
事業所名	グループホーム水戸		
所在地	福岡県粕屋郡志免町志免東4丁目1番2号		
自己評価作成日	平成29年11月10日	評価結果確定日	平成29年12月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成29年11月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

医療法人社団緑風会水戸病院は、居宅介護支援、訪問看護、介護、有料老人ホームと医療と介護の事業を展開しており、近年では認知症医療センターを中心に行政(地域包括支援センターなど)と連携を取り、地域の中で認知症に対する連携の拠点として活動しています。その中でグループホーム水戸は行政や、地域の方との情報収集、発信、連携、を行い地域に開かれた施設になれるように努めております。スタッフは、「ゆっくり、一緒に楽しみながら、その人らしさを大切に生活を送る」を理念に掲げ入居者スタッフが家庭的な雰囲気の中で暮らして頂けるように取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念の唱和が継続され、今年も入居者手作りの干し柿がベランダを飾り、真剣な表情でぼた餅を作る入居者のスナップが運営推進会議で紹介されている。8月に就任した新管理者は、在宅の認知症の方を支援してきた経験を活かして、入居者に応じたアクティビティを模索し、さらなる思いや意向の把握に努めたいと話している。課題やケア内容が記載されたチェック表を毎日をチェックし、放尿のある場合はすぐに後始末をするなど、失敗体験の悪い感情が残らないように支援している。また、恒例の家族会には16家族が参加し、入居者と楽しい時間を過ごしている。職員の希望や資格に応じた研修参加で人材育成に努め、法人の認知症医療センター主催のシンポジウムや町の認知症カフェに参加し、地域の方々との交流や関係機関との連携に努めるなど、さらに地域に密着したサービスの提供に尽力している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **2階／グループホーム 水戸**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、スタッフ全員での理念の唱和を行い、その理念は各スタッフが自覚でき、入居者とのかわりの中で共有、実践できている。	理念の唱和を継続し、理念の実践に努めている。8月に就任した新管理者は、在宅で生活する認知症の方を支援してきた経験から、ホームは個別の時間を大切にできる空間だと話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	志免町シーメイト内で認知症カフェが行われており、入居者の方にも参加して頂いている。今後も地域との交流を深めるため参加していく予定。	認知症医療センターである母体医療機関が地域に向け認知症に関するシンポジウムを開催し、職員が参加している。参加した法人主催の祭りや地域の認知症カフェで、地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人の認知症医療センター主催の研修会に参加、積極的に参加し運営のお手伝いも行っている。管理者は志免町の認知症初期集中支援チーム検討委員会に参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の開催、施設の報告は、行事の写真を変えわかりやすく報告している。また、苦情処理委員会の第三者介入の方法として、町内会長に意見箱の開封を一緒に行っていただくこととしている。	家族や利用者の参加で、定期的開催され、各ユニットの玄関に会議録を公表している。骨折など事故や避難訓練、入居者状況を報告しているが、写真を添えた入居者の暮らしぶりの報告は好評である。開催日に意見箱を開封しているが、特段の意見はない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期の運営推進会議、志免町主催の認知症サポーター講話への参加。行政とも関わりを深める活動を今後も続けていく。	管理者が認知症初期支援チーム検討委員会に参加し、地域包括支援センターと連携している。町主催の認知症関係者会議に出席したり、認知症キャラバンメイトを引き受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、車いすベルトの着用は行っていないが、拘束の3原則により、正しい評価をもって（拘束を）行わない対策を立てていく。	身体拘束の具体的な内容を理解し、言葉や行動の拘束はしないという意識でケアをしている。夕方になるといつも帰宅願望のある利用者へは声掛けや話題を変えたりその人に寄り添った関わりをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の実態はないが、言動に対しては、気になる対応があれば個々で指導を行う。また、スタッフ全員で根拠をもとに指導し共有していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内、外部の権利擁護や制度についての研修に参加、専門職は知識をもってスタッフ間に伝達の講習を行っている。家族から相談を受けた際、専門職は適切にアドバイスをを行っている。	現在は、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用はない。事業や制度に関する資料を整備し、家族の要望で成年後見制度に関する説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時はスタッフ2名で行こなう。わからなければTELにてフォローも十分行っていく。管理者は就任間もないため家族の面会時は必ず顔を合わせラポールの形成に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営上の決定事項は必ず文書にて全家族に周知していただくようにしており、大事な案件に関しては家族会など集まる場で提示し、家族に意見を求め反映させていくようにしている。意見箱は第三者確認の下、回答とともに公表していく。	今年度も敬老会に併せて家族会を開催している。16家族が参加し、入居者と一緒に歌ったりゲームを楽しんでいる。異動間もない新管理者は、家族と話す機会や時間を設け、関係づくりに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営上のスタッフの個別の意見は良ければミーティングの場などで全員のものとして共有するように提示し、評価、対策を立てていく。2F,3Fともに統一された対策。	管理者が各ユニットに交互に勤務し、月1回開催している会議内容は、他のユニットに伝達している。ユニット間で異なる入居者の心身状況や職員体制に対して率直な意見もあった。管理者が人事考課で面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ個人の能力レベルは相違するが、チームとしてそれをフォローし合え、まとまっていけるような雰囲気づくり、また、個別面談では、個々の抱える問題にも相談にのり、業務に集中できるようにフォロー、アドバイスを行う。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時は管理者は面接を行って本人の希望や、高齢者に関わる勤務への対する思いや考えを聞いている。本人が安心して業務に入れるよう、チーム間で担当者を決め、配慮、指導を行っている。	法人人事課で採用された20歳～70歳までの男女の職員が就労している。体調が優れず正職員から非常勤職員になった職員もあり、働きやすい体制を作っている。法人内で職員異動があり、職員の希望に応じた資格取得研修を推奨し、グループホーム協議会や地域開催で開催されたシンポジウムなどに参加している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の研修会の参加、また、業務に直接かわる内容には、施設内で勉強会を行い、正しい知識をもとに、対応できるようにスタッフの育成に取り組んでいる。	日頃から、入居者への言葉遣いなどに留意しているが、今年はまだ人権に関する研修会に参加していない。	介護職員の人権研修参加は必須であることから、町主催などの人権研修に参加し、ホーム内での伝達講習などを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスタッフに足りていない部分を補う為、本人に合った研修会の参加を促している。その後も、実践において役立てているか、個別に評価を行う。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症グループホーム協議会の研修会参加を通し、他施設のスタッフとの交流、情報交換を行い、相互にサービスの向上を目指すよう努める。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期など不安を抱えた入居者様に、スタッフは安心を得られる対応をし、ラポールを形成していく。年齢の近いなじみのスタッフが主に関わることもある。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは入所時からコミュニケーションを深めるように、管理者、ケアマネージャーが窓口になり、いつでも相談に乗りやすいように雰囲気を作っている。面会時には、ご本人の近況をお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを中心に、定期的なケア会議、普段のミーティングの中でアセスメントを出していき、適切な支援を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは「一緒に楽しみながら」の理念に沿い、相手のペースに合わせ、尊重した態度をもって信頼関係を築き、入居者とその空間を共有していけるよう努めている。スタッフ間でもお互いに意識しあうように情報交換を行う。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、スタッフは、入居者の生活上のことを伝達するだけでなく、ホーム内での喜ばしい出来事などは報告し、過去の家族とのエピソードなどに耳を傾け、その人なりを理解するよう努めている。そしてスタッフ、家族間で共有するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には積極的に来ていただくようお願いしている。また、なじみの場所や家族が集まることがあれば、ご家族に可能な範囲で外出をお願いしている。	趣味のサークルで顔見知りだった入居者と昔話をしたり、職員だった入居者を以前の職場に同行し、馴染みの職員に昔話をお願いしたりしている。管理者は敬老会で家族に楽しんで過ごしてもらい、家族との関係継続を支援したいと話している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、互いに良好な関係が保てるような環境調整を行う。スタッフもグループ間の雰囲気をつなげるように介入し、「一緒に、楽しみながら」の理念に沿ったレクリエーションや季節の行事を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	身体的な理由(骨折、肺炎など)で入院となった際、積極的に面会に行かせていただき、再開後の不安が少なくなるように努める。また、退所された後の家族からの相談も管理者は専門的な見方をもってアドバイスをを行い、解決に向けて努力を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や面会時に情報収集を行い、ケアマネジャーを中心に本人、家族の意向に沿った支援を行っている。	職員を担当制にして、思いや意向の把握に努めている。ハーモニカの上手な入居者と、職員や管理者がハーモニカや大正琴で「ふるさと」を合奏するなど、管理者は、生育歴などのアセスメントで、さらなる思いや意向の把握に努めたいと話している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの生育歴、職歴、家族関係など情報収集にて、その人なりを知るように努め、スタッフ間で共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ごとの生活のリズムを、ある程度の期間を(1~2週間)をおいて把握し、リズムや気分、身体的に変調がないか観察している。あった場合は適切に評価、対処を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットごとに月に一度ケア会議を行っている。モニタリングの結果を参考に、小さな変化でも報告しあい、問題点を抽出し、介護計画に反映している。	課題やケア内容が記載されたチェック表を毎日チェックし、定期的なモニタリング結果をケア会議で話し合い、計画の見直しをしている。幻視はないが、午前中活気がなく入浴を拒否することが多い入居者に、何を楽しみながら生活を送っていただくかが課題となっている。	より現状に即した介護計画を作成するために、職員の気づきを話し合う時間を確保したり、短期目標をモニタリングしやすくするために、箇条書きなどで詳細なケアの記載を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については、普段と違う変化や、身体的な変化、心身の状況など、客観的な見方をし、介護計画に基づいた内容で記載するようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	成年後見人制度の紹介や、受診の援助など、窓口となるケアマネはご家族と意思の疎通を保ち、その時に必要なサービスをいろんな角度から検討するようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと連携を図り、町で行われる行事（認知症カフェ、祭りイベント）への参加。屋外の活動参加を通し、入居者のQOLが保たれるようにする。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の理事長による健康管理が2週間に一度行われる。臨時でも身体に変調があった際には、速やかに対応している。歯科も週に一度、掛かりつけの往診が行われている。	法人理事長が定期的に来訪し、全入居者の健康状態を把握している。変化があればすぐ対応や指示を受け、専門医療機関受診時は、紹介状を持参している。新管理者の尽力で、夜間急変時は法人の当直医師に往診してもらい指示を受ける体制づくりをしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士の気づいた小さな変調も、看護師は多角的に検証し、受診が必要な場合速やかに医師につなげる、また介護士には根拠をもって状況を説明し、以後の観察点につなげる。介護士、看護師相互の連携が必要である。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院となった際には、安心、安全に入院生活が送れるように、転院先の看護師や、ソーシャルワーカーと情報交換を行っている。退院が近くなれば、退院時カンファにも参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変、救急の際の対応についてご家族の方に確認をしている。身体的な状態の変化があった際は、ご家族、担当医、施設管理者で再度方向性の確認を取るようにしている。	開所以来、看取りはない。管理者は終末期が不明瞭であることや、看護職員の確保が課題であると話している。肺炎に罹患した入居者は、主治医の指示で他の医療機関に搬送するなど、疾患の重度化に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修、施設内で急変時、救急時の研修を行い、知識技術を身につけ、事故発生時には冷静に対処できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の備蓄食をユニットごとに用意している。使用期限は適時確認している。非常災害の訓練は、病院スタッフ、同施設内のDCスタッフとともにやっている。	年2回避難訓練を実施している。消防署が近く2・3階の各ユニット毎に非常階段が設置され、近隣に在住する法人の職員も多い。飲料水、インスタントご飯、カップラーメンなどを備蓄している。	多様なサービスを展開する法人に地域の信頼も篤いことから、町から非常災害時避難所の指定を受けられることを是非お願いします。又、備蓄台帳の整備も期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には尊敬の念を持って応対し共感と受容を持って接している。プライバシーの面には十分配慮を行っている。	傍で、同じ高さ目線でゆっくり話しかけるなどの対応で、入居者の表情も穏やかで笑顔が見られる。訪問調査時は、管理者は当該入居者に声かけて訪室の許可を得るなど、日頃の丁寧な対応が伺えた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様からの要望はできる限り聞き入れるようにしている。(〇〇に外出したい、〇〇が食べたい) 食事のメニューも入居者の方に適時決めて頂くことをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の理念に沿って、個人のペースに合わせて過ごして頂いている。スタッフは、個人の要望に耳を傾けられる限り対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着る洋服などは自身で決めて頂いている。朝の整容などもできる限り自身で行っていただき、できない部分をスタッフが介入している。洗濯ものは自分でたたんでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に、雰囲気を楽しみながら、食事をしている。メニューは適時に入居者様から要望があるものは取り入れている。入居者様にはテーブル拭きなどのお手伝いをお願いしている。	今年も入居者手作りの干し柿がベランダを飾り、真剣な表情でぼた餅を作る入居者のスナップが運営推進会議で紹介されている。日頃は職員が献立を決めているが、週1回入居者に希望の献立を伺っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶などの水分や食事は摂取する時間は一日の流れに組み入れ生活リズムを整えている。個別に身体状況や、趣向や習慣に応じた支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個人のADLに合わせ歯磨きをし、口腔内の清潔を保つようにしている。自分でできる事は行っていただくようにしている。義歯は外して磨くように促している。歯科の往診時に義歯や、歯の状況を伝えアドバイスをいただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便意尿意の自覚があってもトイレの場所の見当がつかない方や他所に放尿されたりする方の尿意のサインを察知し適時介入誘導するようにしている。失敗体験として残らないような関わり、配慮を行うようにしている。	放尿する入居者もあるが、すぐに後始末をするなど、失敗体験の悪い感情が残らないように支援している。各入居者の排泄のパターンやリズムを把握し、日中だけでなく夜間もトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人ごとの排便周期を把握し、散歩などの運動や水分の摂取などでコントロールする。他の薬の副作用で排便周期が変わったり、排便困難となった場合は、担当医と相談し下剤の使用を検討する。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様のリズムに合わせてゆっくりと入浴をしていただく。拒否される際は無理強いしない。本人が好きな時間に入れるように調整している。	明るく広い浴室には、3方から支援できる個浴槽やキャスター付きシャワーチェアが設置されている。週3回入浴を支援し、車イスの入居者も浴槽にゆっくりと入っている。入浴を拒否する入居者には、声かけやタイミングを見計らって、「気持ちよくなりましょう」と支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に応じて、昼夜問わずに自室で休めるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬内容は介護スタッフも分かるように提示し、看護師から薬の主作用、副作用について説明し、処方があった際の観察点を伝えるようにしている。今後、院外薬局の服薬管理指導の導入予定。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団で行う、レク(歌、体操、ゲームなど)ではみんなが参加しやすいように雰囲気を保っている。また小集団、個別での活動も参加メンバーや個々に合った事を行っている。(屋外の散歩、歌、楽器)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に2回、または季節に応じてバスハイクに行っている。要介護5の方も季節を肌で感じられるように積極的に参加して頂いている。タイミングを見て小集団、個別にその方の意向に合った場所に出かけるようにしている。	階下の系列サービスの車輛を借りて、コスモス見学や神社に詣でている。食材の購入、階下のごみ捨てや別棟の事務室などに誘って出かけたりと、外の空気に触れる機会を大切にしている。広い敷地にある八幡宮の神事に参加したり、家族と敷地内の遊歩道を散歩する入居者もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	屋外や院内の売店に行った際に、お金を持参しおやつなどの購入時自分でお支払いして頂くようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙は自由にできるように支援している。電話の掛け方が分からない方にはスタッフが介助を行う。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の環境整備は、室温、湿度、床上の危険物、採光、騒音などに留意し、危険のない過ごしやすく居心地の良い環境をつくるように努めている。季節に合った壁のポスター(入居者で作っている)を掲示している。	2～3階にユニットが開所され、玄関横の棚には思わず手に取りたくなるようなクリスマスグッズが飾りつけられている。広くゆったりとした共用空間から敷地内の木々の紅葉が見渡せ、傍の厨房からは食事を作る音や匂いが流れている。ベランダには干し柿が並び、食卓正面の壁には季節感のある貼り絵が掲示され、入居者はソファや食卓の椅子で寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自席を決めてもらっていることで安心感を持てるようにしている。隣接した方とトラブルとなった際には一時的に距離を持っていただき悪い気持ちが残らないよう調整している。ソファは自由に過ごしていただいている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には、本人が昔から大事にされているもの(危険でなければ)などお持ちし飾っていただいている(仏壇、夫の写真など)ご本人の意向に合った過ごしやすい空間にしている。	各居室にはベットや筆筒が備え付けられ、各居室入り口には表札を掲げ、折り紙で作った花を飾っている居室もある。仏壇を持参している入居者もあり、家族写真を飾るなど居心地よい居室づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフは、ご本人の残っている能力を見極め、できない部分の支援に努める事。失敗しそうなときは適時支援をし、ご本人が居心地の良い生活が送れるようにする。		